

もっとリアルな体験を



東北大学金属材料研究所

所長 古原 忠 氏

四十年以上前に大学に入学して以来、金属という物質に魅せられて研究を続けています。

いつから科学に興味を持ったのか記憶を遡ると、小学生低学年の経験が発端だと強く感じます。「〇年の科学」という雑誌を両親が定期購読してくれており、付録で色々「遊び」感覚で様々な実験をした記憶があります。他にも短期で刊行終了した小中学生向けの科学雑誌が家にあり、物理や化学、宇宙などの写真や絵を駆使した紹介を何度も読み返していたことが鮮明に思い出されます。その後、顕微鏡や望遠鏡に触れるなどする中で、自分の手で実験し、自分の目で観察することを大変面白いと感じるようになりました。今関わっている金属は私たちの社会を支える最も重要な物質群であり、その発展を目指して研究をしているわけですが、その中で金属結晶の成り立ちと性質との関係の解明に対する好奇心

を今でも継続できていることは大変幸せだと感じます。

最近バーチャルリアリティが大変脚光を浴びています。一頃のネットサーフィンでの情報収集ではなく、今ではバーチャル空間で様々な観光地を訪れるなどの仮想体験ができることは全く素晴らしいことです。しかし、一方で、実物に接することでの感動が薄まっていくことは否めません。「痛い」、「熱い」、「冷たい」などのいろいろな失敗を経て、苦勞して実際に体験する喜びが成長に繋がることは間違いないことです。子供たちや成人後の若い世代には「バーチャル」ではない「リアル」な体験を外に出してできるだけ欲しいと感じます。その環境を実現するために、私のようなシニアを含む大人世代が努力を継続することが大切です。

今コロナ渦の中でニューノーマルと言う言葉が盛んに言われます。

教育現場ではオンラインによる授業や実習などのバーチャル体験が増え、私に関わる大学生や大学院生も含めて、クラスメートと一緒にその時間を体感できないなど、子供たちは今までにない抑圧された環境にあります。教育に携わる一人として、未来のためにできることは何かを考え、皆様と協力して取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(ふるはら ただし)



教育随想



令和4年2月1日

2月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
東北大学金属材料研究所
所長 古原 忠 氏
- この人に聞く…………… 2
特定非営利活動法人「Face」
理事長 小宮 泉 氏
- 羅 針 盤…………… 2
葵中学校
校長 荻須 文裕
- ふれあい…………… 3
城南小学校
教諭 松崎 俊介
- 特 集…………… 4
すべての市民にスポーツを楽しむ機会を
～総合型地域スポーツクラブの取り組み～
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー… 8
私たちのケヤキを守れ！(平成2年)
- この本を…………… 8



成長実感ができる職場作り

特定非営利活動法人「Face」
理事長 小宮 泉氏

三児の母であり、薬剤師として病院に勤務する傍ら、障がいのある方が通う作業所の法人格取得に向けて尽力する。二〇一一年三月、「特定非営利活動法人Face（フェイス）」を開所する。

現在は理事長として、利用者十名の作業所の運営や指導に努め、街のイベントや公共施設、学校行事等で、手作りの焼き菓子や雑貨などの商品の販売活動に取り組んでいる。

—なぜ、「Face」を立ち上げたのですか—

娘が四歳のころから、同じような障がいのある子をもつ親たちと共に、生活の中での問題解決への導き方、福祉制度などについて学んできました。障がいのある方の人生を少しでも実り多く充実したものにしたい。このような

思いを共有する仲間が集まり、子供たちの高校卒業と同時に開所しました。「Face」という名前は、顔の「Face」と信頼の「Faith」を意味します。「お客様や仲間の顔が見える」「みんなから信頼される」、そうした活動にしたいという思いを込めています。作業所に通う利用者の方が毎日生き生きと働き、周囲から愛され、褒められ、信頼される人になることができようサポートしています。

—「Face」を運営する上で大切にしていることは何ですか—

一つ目は、利用者の学びや成長につなげることです。受注によって、毎日作る商品や量が異なり、担当する作業も変わります。製作過程のどこで、どのようなことができるのか、どのように教えていけば、正確に作業を行えるのかを考え、作業を細分化して取り組んでいます。小麦粉の計量の際、はじめは量が多過ぎたり、少な過ぎたりしました。そこで、正確に量ることができるようになりました。利用者が作業を覚えて、一つ一つできるようになっていく姿は、とてもうれしいことです。相談し、改善をする中で、利用者も職員も学び続け、成長できると感じています。

二つ目は、商品の販売を通して、利用者とお客様との信頼関係を築くことです。障がいのある方が作った商品だから買っていたのではなく、よい商品だから「またFaceで買いたい」と思っていただけのように、質の高い

商品を作る努力をしています。以前出来上がったマスクの規格が違い、全て糸を解いて縫い直したことがあります。お客様は「お客様の信頼を得るためには、常に同じ形、同じ大きさ、同じ味など、誰が作っても同じものができるようにすることが必要です。『おいしいね』素敵ね」と、お客様から声をかけていただくと、利用者は「私が泡立てました」と嬉しそうに答えます。お客様から褒めていただくことは、利用者から喜びと自信につながります。

—今後の活動についてお聞かせください—

周りの方々の支えにより、一歩ずつ前進してきた十年です。日々積み重ねてきた学びや信頼を今後も大事にして、成長を続けていきたいです。

そして将来は、グループホームにつなげていきたいと思っています。現在、利用者は自宅から作業所まで自分で通っています。親が年を取っても、現在の生活や環境が変わらないように、仲間と共に、食事や寝泊りなどができる施設を考えています。毎日楽しく通え、自分を必要としてくれる仲間がいる職場作り、お客様に喜んでもらえる商品作りを、生涯続けられるようにしたいと思っています。



氏名 こみや いずみ
生年月日 昭和三十九年
四月二十六日
住所 岡崎市井内町



温故知新

葵中学校
校長 荻須 文裕

子供たちは、未来に向かい、今という時を生きている。近年、教育に導入されたタブレット(※)は、これからの社会を生きるために、不可欠であることは言うに及ばない。

これまでも、それぞれの時代でOHPやプロジェクター等の機器が活用されてきた。これらの機器は、授業の質を高めることに効果を発揮した。しかし、授業の基本スタイルを変えるまでには至らなかったのではないだろうか。今回、全国で導入されたタブレットは、授業を根本から変える力をもっている。

その第一は、日常的に子供たちが手元で使う文具である点が、重要な要素であろう。そのため、個別化に適し、一斉授業からの脱却に大きな力を発揮する。

第二として、タブレットそのもの



思いを言葉に

城南小学校

教諭 松崎 俊介

六年生になってもAさんは、自分の困り感を言葉で分かりやすく伝えることを苦手としていた。思うように言葉が出ず、友達と粗暴な態度でけんかになることが多かった。「どうしたの」と理由を聞いても、黙り込んでしまう。目に涙をためた彼の姿から、本当は友達と仲よくしたい、という切実な思いが伝わってきた。

「言葉で伝えてみよう」と励ましたのが、Aさんが変わっていくことはい。Aさんにとって、思いを言葉にするということはとても難しいことだった。しかし、自信をなくすAさんを何とかしたかった。本当は優しいAさんに、自信をもってほしいと願った。

そこでも、Aさんと関わる時間を今まで以上に大切にしていくことにした。休み時間には、他の子も誘って毎日のように一緒に遊んだ。常に声を掛け続け、自分の気持ちを言葉で伝える練習を何度もした。Aさん

は少しずつ言葉の大切さに気付いていった。

学級に対しても、「誰にでも苦手なことがある。でも、そのできない部分をお互いに支え合える温かい学級にしたい」と、私の願いを話した。さらにAさんと交換日記を始め、互いに本音で語り合う場を設定した。自分の気持ちを素直に表現できているところを、「すてきな言葉だね」と褒め続けた。次第に自分の思いを文章で少しずつ表現できるようになっていった。

うまくいかなかったも、懸命なAさんに、「すぐにはなりたくない自分になれないかもしれない。でも大丈夫。自分の気持ちを素直に伝えてくれると嬉しいし、私は、Aさんらしいあなたが好きだよ」と励まし、信じ続けた。

卒業を間近に控えたある日、退職される先生を祝う会を、学年で企画することになった。六年間、いつもAさんに寄り添ってくれた優しい先生だ。するとAさんは、「僕でもできますか」と、児童代表のお礼の言葉を述べたいと申し出た。私は迷わずにAさんに託したいと思った。

提出された下書きには、先生に対するAさんの真つすくな言葉が綴られていた。「大好きです。感謝しています」という言葉が、Aさんの心からの思いを表していた。「あなたの気持ちはきっと伝わるよ」と、私はAさんに下書きをそのまま返した。

当日、緊張で震えながらも、一言ずつ丁寧に言葉で伝えようとするとAさん。それをうなづくように聞く先生。伝え終わったAさんに、友達からも大きな拍手が送られた。「やってよかったです」と、照れながら微笑む姿に成長を感じ、私は涙が止まらなかつた。

先日、卒業したAさんが、友達と一緒に数年ぶりに学校を訪ねてきた。友達に囲まれ、笑顔いっぱい話すAさんからは、自分に自信をなくしていた過去の姿はもうなかつた。「たくさんけんかもしたけど、楽しかったですね」と、過去の苦労を笑い話にして話せるAさんの成長に喜びを感じた。

人は、人との関わりの中で悩むことがある。すぐには変われないこともある。いろいろな経験を経て、自ら気付き、成長していくものだ。私にできることは、いつか花咲く時のために、子供を信じ、支え続けることなのだ、Aさんの成長に教わった。



に思考ツールとしての機能がある点が重要である。

これまでの機器は、基本的に一斉授業を想定しており、その役割の多くは、全員で同じ情報を共有することにあつた。タブレットでは、一人一人が自分の求める情報を得て、それらに関連付け、新たな考えを生み出すことが可能となる。さらに、それを自ら発信することに大きな力を発揮する。

一方、タブレットの普及に伴い、板書が疎かにならないかと、心配をしている。言うまでもなく、黒板は百年以上に渡り、授業で使われ続けてきた道具である。そこに書かれることは、単に授業のポイントや覚えるべきことをまとめた語句ではない。子供たち一人一人の考えを提示し、対比させたり関連付けたりすることで、新たな価値を見出すことに意味がある。つまり、板書には、子供たちが頭の中で考えていることを見えるようにする働きがある。

デジタルシンキングは、強力な思考ツールである。板書も、また、その機能を有している。

タブレットも黒板も、どのように使うのかは教師の力量が試される。子供たちの深い学びに生かしたい。 ※タブレット⇔タブレット型情報端末

すべての市民にスポーツを楽しむ機会を ～総合型地域スポーツクラブの取り組み～



▲親子オリエンテーリング教室（講師：岡崎オリエンテーリング協会）

NPO 法人ワ斯巴

代表 細井敦也氏へのインタビュー

Q 総合型地域スポーツクラブの役割とは何ですか？

A 一つのスポーツを極めるクラブチームとは違い、運動が不得意な子どもも気軽にスポーツを楽しむことができ、誰もがスポーツに親しめる機会をつくるのが、総合型地域スポーツクラブの役割だと思います。

Q 岡崎市における総合型地域スポーツクラブの課題は何ですか？

A まず、指導者の確保です。学校や地域の方が指導者として入っていただき、市内の各小中学校とも連携しつつ、各地域で協力して運営できればと思います。次に、活動拠点が限られていることです。そのため、参加したくてもできない子どももいます。ワ斯巴のようなスポーツクラブが増え、子供たちが歩いていける距離で好きなスポーツが楽しめるようになります。



文部科学省では、平成七年度から十五年度までの九年間、地域のコミュニティの役割を担うスポーツクラブづくりに向けた先導的なモデル事業として、「地域住民の自主的な運営を目指す「総合的・地域スポーツクラブ事業」を実施してきた。その育成マニュアルには、「総合型地域スポーツクラブについて、「人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、①子供から高齢者まで（多世代）、②様々なスポーツを愛好する人々が（多目的）、③初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加（多志向）」という特徴をもち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブである」と記されている。

岡崎市で、唯一の総合型地域スポーツクラブを運営しているのが、NPO法人ワ斯巴である。平成二十二年に、ワ斯巴が運営する「フレックシアスポーツクラブ（岡崎市総合型スポーツクラブ）」が設立された。令和元年度に企画されたスポーツイベントには、年間一〇〇〇人以上の親子の参加があった。また、「おかざきジュニアフットサルリーグ」「三河バスケットボールリーグ」「三河ソフトボールリーグ」などの競技会や大会運営も行っており、毎年延べ一万人ほどの参加・観覧動員を数える。他にも、「フレックシアスポーツ教室」として、年代に応じたチームを編成し、毎週活動するスポーツクラブの運営も行う。

これらは多くの市民が、スポーツを楽しむ、汗を流す機会や場となっている。今後も、岡崎市の子供たちの健やかな心身の育成と、市民の健康増進や体力向上を図る様々な企画が行われることを期待する。

スポーツに親しむ機会づくり



▲タグラグビーの合同体験教室
「夏山小、下山小、宮崎小」
(講師：馬場崎義輝氏 NPO 法人ワスパ
ラグビーフットボール事業主事)



▲親子ボウリング教室
(講師：岡崎ボウリング
スポーツ少年団)



▲親子ホッケー教室
(講師：NPO 法人愛知スポーツ倶楽部)



▲ダンスワークショップ
(講師：甲田真理氏 ハリウッド映画
「ステップアップ」シリーズに出演)



▲親子サッカー教室
(講師：イタリアセリエA
ジュニアコーチ)



▲親子バレーボール教室
(講師：トヨタ車体女子
クインシーズ)



▲フットサルクリニック
(講師：横江怜氏、篠崎隆樹氏
元フットサル日本代表)



▲ジュニア野球教室
(講師：三菱自動車硬式野球部)



▲ジュニアバスケットボール教室
(講師：小畑亜章子氏
元デンソー女子バスケットボール部)

◇様々なスポーツ体験

◇プロや専門家を招いて
のスポーツ教室

◇競技レベル向上を目指す
した教室(年代別)

競技会・大会の運営



▲フリーグブレイザーズマッチ
(名古屋オーシャンズ vs
府中アスレティックFC)



▲三河ソフトボールリーグ
(中学・高校)



▲ラグビーフットボール
(対象：小中学生、活動日：土曜日)

「矢作杯」バスケットボール大会(小学校)、U18フットサル大会など、小学生から一般までの各種大会を主催、運営している。様々なスポーツに親しめる「おかぎきフレンドシップゲーム」を開催している。

フットサル、ソフトボール、バスケットボール、ラグビーフットボールにおいて、年代別に分けて週1、2回程度指導にあたっている。



●教育最新情報

◆令和四年度岡崎市教員免許状更新講習

現行の教員免許状更新講習については廃止を含めた見直しが報道されているが、具体的な法改正等は示されていない。それまでは現行の制度が続くこととなり、当面は例年通りの準備を進めていくこととなる。今後は国の動向を注視しながら対応していく予定である。

○受講対象者

①令和四年度に岡崎市立学校・こども園等に勤務する本務職員(再任用含む)と常勤講師・非常勤講師・講師希望のある教員補助者等

で、次の生年月日に該当する者

(第4グループ)

昭和53年4月2日～

54年4月1日

昭和43年4月2日～

44年4月1日

昭和33年4月2日～

34年4月1日

②第3グループで未受講及び

継続受講の方

昭和52年4月2日～

53年4月1日

昭和42年4月2日～

43年4月1日

昭和32年4月2日～

33年4月1日

※昭和32年4月2日～33年

4月1日(満65歳)の再

任用教諭、臨任講師、非

常勤講師等も受講義務が

ある。

③新免許状(平成21年4月1

日以降に、初めて授与され

た免許状)で有効期限満了

日が令和6年3月31日まで

の方

④①～③以外で延期申請を

行った方、未受講及び継続

の方で、修了確認期限が令

和6年3月31日までの方

○受講対象者説明会

・日時

令和4年2月25日(金)

午後6時から

・場所

岡崎市総合学習センター

多目的ホール他

◆令和四年度研究発表会

令和三年度市委嘱研究校と

して羽根小学校、広幡小学校、

翔南中学校が研究発表会・授

業を語る会を公開した。各校

とも三年間の研究の成果を發

揮し、岡崎の教育を推進する

実りある研究発表会となった。

令和四年度の市委嘱研究發

表校の研究主題と公開する授

業の教科・領域等は次のよう

な予定となっている。

○大門小学校(全教科)

・十月十九日(水)

【研究主題】

「みんなて学ぶことを楽しみ、

よく考え、あきらめず学び続

ける子どもの育成」

一人も取り残さない「協働

的な学び」「個別最適な学び」

の視点から授業を作り直す」

○東海中学校(全教科)

・十月二十六日(水)

【研究主題】

「自ら未来を切り拓く生徒の

育成

「フアシリテーションを核と

したチーム学習を通して」

○梅園小学校(全教科)

・十一月九日(水)

【研究主題】

「未来を自分らしく生き抜く

子供

「30年後を見据えた新しい

キャリア教育の創造」

令和四年度の自主発表校の

研究主題と公開する授業の教

科・領域等は次のような予定

となっている。

○竜海中学校(全教科)

・十一月二日(水)

【研究主題】

第12次研究(四年度)

「自ら学び続ける生徒の育成

―「読む」・「書く」の充実を

図り、「わかる」の実感を強

める学習指導を中心に―」

○附属岡崎中学校

・九月二十七日(火)

○附属特別支援学校

・十一月四日(金)

○附属岡崎小学校

・十一月十七日(木)

・十一月十八日(金)

◆第65回岡崎市小中学校書き

初め展

一月十五日(土)から十六日(日)

まで、岡崎市美術館で、小中

学校書き初め展が開催され

た。昨年度開催中止となった

ため、二年ぶりの開催となっ

た。今年度は、新型コロナウイルス

イルス感染症拡大防止を鑑

み、入場者を選者の家族と

する、館内を一方通行とする、

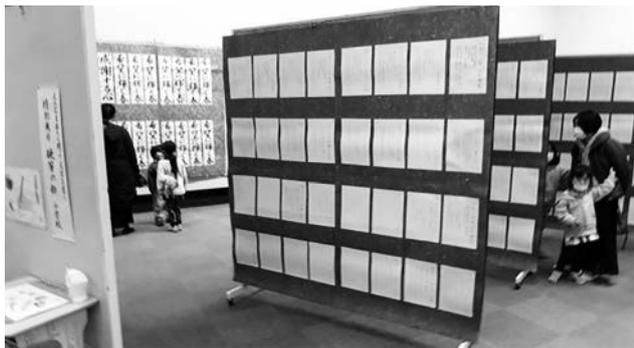


短時間での鑑賞とするなどの対策が講じられた。

市内の各小中学校及び聾学校、愛知教育大学附属学校から、各学級の代表作品二点ずつ、計二〇〇点以上が展示された。また、書き初め作品に加え、今年度も鉛筆を正しく持つて文字を書く力を付けることを指導目標とした硬筆書写作品も展示した。

会期中、約五八〇〇人が会場を訪れ、子供たちの作品を鑑賞した。ソーシャルディスタンスを意識しながら静かに鑑賞する姿が会場のあちこちらで見られた。

展示された書き初め作品は、文集「おかざき」に掲載される。



●表彰関係

◆第二十九回全国中学校駅伝大会

○男子の部

○女子の部

○区間賞女子

二区 矢作北中 内田 詩乃

◆愛知県中学校総合体育大会

○スキー競技女子回転

二位 竜海中 田中愛佳理

三位 竜海中 田中愛佳理

◆第四十六回ゆちよアイデア貯金箱コンクール

○小学校三年生の部

文部科学大臣賞

小豆坂小 河野 朝飛

◆第五十五回全国野生生物保護活動実績発表大会

奨励賞 生平小

◆第三十八回全国小・中学生作品コンクール

○国語部門

子どもの文化・教育研究所理事長賞

男川小 柴田 奏佑

◆第二十一回読書感想文「こころの木」

こころの木賞

梅園小 小山 美佳

◆第二十五回「俳句の里」山梨県笛吹市全国小学生・中学生俳句会

奨励賞

南中 山中 陸

◆第四十回全国中学生作文コンテスト愛知県大会

優秀賞

竜美丘小 鬼頭杏花里

◆令和三年度土砂災害防止に関する作文コンクール

佳作

東海中 宇野 由楠

こころの木賞

竜美丘小 湯淺 碧

こころの木賞

竜美丘小 森川 永大

奨励賞

南中

山中 陸

優秀賞

竜美丘小 鬼頭杏花里

佳作

東海中 宇野 由楠

竜海中 小林 瑞季

梅園小 伊藤 朱花

常磐小 南山 果穂

最優秀賞

矢作北中

教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	月曜日～金曜日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～17:00
4	あいこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

・カ
ツ
ト

六ツ美北中
岡
義輝

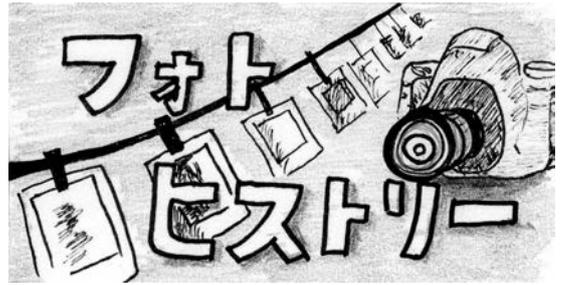
私たちのケヤキを守れ！ (平成2年)

写真提供：城南小学校

平成二年九月、台風十九号が猛威を振るった。市内の多くで被害が出る中、城南小では、シンボルツリーであるケヤキの木が、強風のために傾いた。写真は、傾きを直そうと、綱引きのために巻き付け、全員で力を合わせて引っ張る様子である。

城南小開校当時に植樹されたケヤキの木は、子供たちの成長をいつもそばで見守ってきた。この愛着あるケヤキの救助をきっかけに、子供たちは、周囲の自然へと目を向け始める。校内散策、植物の栽培、ウサギの飼育など、自然に親しむ活動を通して、生命について学んだ。その営みは、「城南小 生命の教育六年間」へとつながっている。

市内の学校には、それぞれシンボルツリーがある。青空に向かって真っすぐに伸び、大きく枝を広げた木々たちは、今も学校のシンボルとして子供たちに生命の大切さを伝えている。



戸惑いや悩み、不安を抱えている子供がいる。教師としてできることは、「寄り添う」ことである。

子供の声に耳を傾け、じっくりと聴く。その思いを受け止め、共に前に進む。自立、成長しようとする子供の心を信じて信じぬく教師でありたい。

どホ

如目



▲卒業を祝う会（甲山中）

「本当にみんな明るいですね」の言葉が何より嬉しいと小宮さんは語る。手作りの商品、温かな笑顔は今日も心を和ませる。個に応じた手立てで、できるまで支援する。努力や変化を捉え、称賛し、共に成長を喜ぶ。そうした活動の中で、自己肯定感が育まれていく。

土にまみれ、白球を追いかける子供。周りから「ナイス、プレー」と、励ましの声飛び交う。そこには、年代を超えた笑顔があふれる。スポーツに親しむ権利は、誰にでもある。そして楽しみ方は、人それぞれ違ってよい。スポーツを楽しむ機会や場が、一人一人の人生を豊かにする一助となる。



*10年後の子どもに必要な「見えない学力」の育て方
木村 泰子
青春出版社 ￥1,400

心に残った一文
言い換えれば、子どもが「安心」したら、「自分から自分らしく自分の言葉で語る」ことができるのです。

数値で測れない生きるための力がある。筆者は、教職員と話し合うなかで、それは次の4つの「見えない学力」であるという結論にたどりついた。①人を大切にする力②自分の考えを持つ力③自分を表現する力④チャレンジする力である。

子供にそれを身に付けさせるには、大人自身もこの力を身に付ける必要がある。こうした力は一人では身に付かない。学び合いがなければ、大人も子供も成長できない。そして、教室や学校が、子供にとって受け入れてもらえるという安心感に満ちたものでなければならない。

- *「ふつうの子」なんて、どこにもいない 木村 泰子 ￥1,400
家の光協会
 - *未来のドリル 河合 雅司 ￥880
講談社
 - *摩訶不思議な生きものたち 岡部 聡 ￥1,600
文藝春秋
- 矢作北小学校 竹平 真仁